

大学図書館問題研究会 京都

京都市左京区吉田本町

京都大学教育学部図書室

(竹村心気付)

TEL 075-751-2111 (内3013)

William A. Katz. "Your library: a reference guide"を巡って

片山 淳

(京都大学附属図書館)

図書館に対して利用者が抱いているイメージというのは、一定の枠にはめこみ様式化することはできないものであろうか。

社会に対して抱くイメージのようなものだと考えてみる。絶えず変転を繰り返しながら対象と措定し、それについて考える時点では、その主体を包み込んで漠とした拡がりでありながら、様々の制約をしているもの。主体においては、社会観、世界観として形成する展開であり、根本として哲学であるもの。いやいや、イメージなど語っても仕方がない。図書館の利用者は、個々の具体的現象として語られねばならない。

図書館は、利用者、資料、職員の3つの角度から捉えることができる。利用者と資料の出会いの場は、図書館において最大限の保証がなされるというのが我々図書館員の理想かつ、基本である。そのため、資料を組織立て、利用しやすい図書館を創ることに真面目に鋭意努力する。

何が利用しやすいのかという視点から図書館員は絶えず活きた図書館を見据えてゆかねばならない。つまり、図書館利用の経験に基づいた利用者の立場からの図書館機能を絶えず点検してゆかねばならない。

これから紹介する本は、アメリカの著名な図書館員のこの視点からの利用者の図書館利用のためのマニュアルづくりの試みであるといつてよい。

William A. Katz著 "Your library: a reference guide" 1979年を取り上げることになったのは、図書館学の選書を行う中で参考業務の分野で著名なKatzのものを購入したことによるものである。そして、この本について、書誌づくりを大学図書館問題研究会の研究活動の一環として取り組むという場で少し話したことによってである。思えば厄介なことを引き受けたものだと今になって後悔している。

この本は、序論で言われていることからすれば、「図書館を利用しようとする人のためのマニュアルとなること」を目的としたものであるという。従って、利用者に対する図書館の案内であり、利用者の立場から見た図書館で何がどのように得られるかについて、多くの参考資料を使って利用者の得たい事柄に自ら到達すべく企図されたものといつてよい。ここでは、図書館員はどの局面でも利用者の

援助をすべく待機している案内人である。

内容は大きく二部に分かれており、第一部では、図書館、図書館員、レファレンスワークの有効な利用の仕方について解説されている。第一章から順を追って見てゆくことにする。

先づ図書館へ来た利用者が館内を見渡した時、目につくもの、つまり、何らかの情報を求める時、そこにあるものについて説明している（第一章）。次に、図書館員の行う利用案内の有様を質問の様々の形式に応じて描き（第二章）、カード目録の引き方及び構成（第三章）、レファレンスワークの種類（第四章）、百科辞典（第五章）、索引（第六章）の説明がなされ、第七章では、レファレンスの三つの型（カード目録、百科辞典、索引）で手がかりとなる事柄（項）について何からどの形で見ればいいかを語り、人名辞典（第八章）、即答する際の参考資料として、Almanac, Yearbook, Handbook, Directory, Geographical sources, Gazetteer 等について書き（第九章）、辞典類（第十章）について書いている。各々いわゆる図書館に備わっているべき基本参考図書を整理して会話形式で解説したものであり、レファレンスワークの一般的な形に触れることが目ざされている。

第二部では、一般的なものから特殊なものへと展開されて、各主題の分野での参考資料となるものの紹介と有用な使い方を次のような構成で解説している。

1. ある分野の基本的参考資料の案内
2. 分類体系にしめる位置（分類番号DC, LC）
3. 件名標目
4. 質問の種類による参考資料の使用法（図で示されている）
5. その分野の参考資料および関連する資料の記述

以上のような構成で各主題分野について、図書館の参考資料による利用案内を図式化している。ここで取り扱っている参考資料の殆んどが、図書館の基本参考図書といえるもので、どの図書館も所蔵しているものであるようだ。つまり、ここでいう利用者とは、初めて図書館に来た人であり、初心者である利用者が図書館で目的を達するために役立つマニュアルづくりが目ざされたのである。恐らく、米国の図書館員の基礎的知識を整備したものであろうが、どれ程の評価ができるかについては少々心もとない。只、著者は、後ろに著作のリストをあげたが、レファレンスについて高度で綿密な参考資料の組織化を計った人であり、多くの図書館人から評価されていることもあり、入門書として読めば、我々には面白いだろうと思われる。

ただ、米国での評価について触れておくと、あの Library Journal 紙では、「専門家の信頼を裏切った」として、五つ程の重大な誤ちがあると指摘されている。その五つの誤ちとは、

1. レファレンスワークの類型に十章をさいているものの殆んどが読みにくい引用形式をとっている点
2. 各主題に対する図書館の使い方について様々の例がパターン化され図式化されているが正当なものとはいえない点
なぜなら、医学を除いた全ゆる主題が12頁程につめこまれており、哲学あるいは宗教には殆んど章が使われていないから
3. 初心者向けに書いたにしては、"Allgemeines Lexikon der bildenden Künstler" や "Science Citation Index" があげられてないし、SCIについては使い方も説明されていない
4. 参考資料の解説に誤りがある。例えば、"Current Book Review Citations"には書名索引はついていない

5. 誤った探索法を勧めていることがたまにある。例えば, "American Revolution" に関する本を探すのに選択的書誌を使うことを教えずに, カード目録を見よといっている等である。そして, 彼の名前から自動的に購入してしまうことを戒めている。しかも, 利用案内だったら, "Gates, Authur Ivring; Reading exercises: manual of directions and answer key, c.1965" 或いは, "Lolley, John; Your library: what's in it for you?, 1974" を推薦しているのだ。(注)

しかし, このことが評価として定まるとは思えない。何故なら細部での誤ちは不適切だが, 利用する側の立場から書こうと試みたこと, しかも, 誰にでもわかるような方法で典型的なマニュアルの形を表現しようとした点での積極的な姿勢が評価できると考えるからである。ただ, この中での教訓は, 利用案内の対象を「初心者か, まごついている素人」に指定したことにあると思える点だ。「マニュアルが, レファレンスサービスだとか, 参考図書の評価だとか, 図書館史だとかいったことに触れると初心者を混乱させるだけだ」という著者の序言を考え合わせるとより鮮明になろう。ともかく, 図書館の利用の手続きを簡明に書くことにおいての判断に問題があったと言えるかも知れない。

主題への接近の仕方は, 知の領域の方法論とも言え, 多様な形式があり得るものだろう。それを, 図書館の参考資料を使ったにせよ, 一般的な形に定着させることは難しいことだと言える。十分な経験と調査, 分析が不可欠である。

最後に Katz の著作リスト及び所蔵の有無を以下に引いておく。参照されたい。

* William Armstrong Katz (1924)
(Bill Katz) 著作リスト

- ・Problems in planning library facilities; consultants, architects, plans, and critiques; proceedings of the Institute, conducted at Chicago, July 12-13, 1963. ALA, 1964. ed
(4-0.L100)
- ・Introduction to reference work. McGraw-Hill, 1969.
(4-0.K107)
- ・Magazine for libraries: for general reader and public, school, junior college and college libraries.
Bowker, 1969.
(4-0.K109)
- ・Library literature. 1974- これは年間の図書館学において ed
有用な雑誌論文を集めたもの。
(4-0.L139)
- ・Magazine selection: how to build a community-oriented collection.
Bowker, 1971
- ・Guide to magazine and serial agents.
Bowker, 1975.
- ・Reference and information services: a reader.
Scarecrow, 1978. ed
(4-0.R127)
- ・Your library: a reference guide.
- ・Collection development: the selection of materials for libraries.
Holt, Rinehart & Winston, 1980.
(4-0.K153)

注) Library Journal, v.104 no.10. 1979. p.1121.

好評だった11月例会

11月例会は21日、京都大学理学部で、6大学22名の参加で開催されました。

「利用者サービスを高める資料研究をどうすすめるか」というテーマで、京都大学工学部林茂栄氏が工学分野の資料研究を、京都大学法学部柴田正子氏が社会科学分野の資料研究をそれぞれの体験を通して発表されました。

林氏は京都大学工学部の教室図書室の現状をふまえ、資料研究を意識的に、かつ組織的にこなしてきた経験と今後の計画を述べられました。

また、柴田氏は個人としての研究テーマの持ち方を具体的に述べられました。

月例会アンケートでも、「研究の方法が理解できた」と大変好評でした。

研究グループ結成へ始動

第3回支部委員会は会員の皆さんのアンケートを回収、分析した結果、次のような研究グループの継続、発足を準備しています。

これ以外に結成して欲しい研究グループがあれば、支部委員会までお知らせ下さい。

機械化問題研究	担当支部委員	平元健史
図書館史研究	〃	成山雅康
利用(者)研究	〃	篠原俊夫
主題(書誌)研究	〃	片山淳
収書蔵書構成研究	〃	提豪範
情報管理研究	〃	白神順子
図書館管理運営(図書館の自由)研究		灘本清五郎
科学技術政策・学術情報ネットワーク研究		竹村心

ボーナスで会費を完納

ボーナスシーズン到来。会費(4,000円)を完納して新年を迎えよう。

会費納入先は、支部委員、又は現金書留で下記へ

〒606 京都市左京区吉田本町
京都大学工学部情報工学図書室
白神順子気付
大図研京都支部委員会財政部